

→ アカデミア創薬とは

アカデミア創薬とは、創薬の基礎研究から医薬候補化合物の創出までの段階を、大学などの研究者が行うものです。

新薬の開発は、様々な分野の専門家の力を集結することにより進められます。現在、新薬の開発には約 10 年あるいはそれ以上の年月と、1000 億円を超える研究開発費を要するとされています。特に、臨床試験においては多くの医療機関の協力と専門的なノウハウが必要です。こうしたことから、従来、医薬品の開発は資金力と人材をもった製薬企業でないと進めることがほぼ不可能でした。しかし、大学などのアカデミアの基礎研究の成果の中には、医薬品開発の原石となるものがあります。こうした原石を大学の研究者が自ら医薬品候補化合物にまで磨き上げ、製薬企業に導出することにより新薬を生み出そうという取り組みが「アカデミア創薬」です。

→ 医薬品開発におけるアカデミア創薬の意義

医薬品開発は人々の健康に貢献することに加えて、産業として、わが国の経済に大きく貢献をしています。しかし、近年、新薬開発の難易度は高くなっており、国際的な競争が激化しています。新薬の開発には多額の投資が必要であり、そのことが製薬企業による開発対象疾病の選択に影響しています。また、限られた資金の効率的利用のために創薬基礎研究からの撤退、開発研究へのシフトを余儀なくさせられており、一つの企業が、新薬を基礎研究の段階から創り上げていくことが難しくなっています。一方、社会では新たな治療薬の開発を必要とする疾病は数多く、切望する患者が大勢おります。そこで、基礎研究を得意とする大学などのアカデミアが企業の医薬品開発に応えられる新薬の原石を発見し、医薬品候補化合物まで磨き上げることが必要になってきました。これは、これからの 21 世紀の日本の医薬開発を支え発展させる上で本当に重要なことであり、この分野で東京薬科大学が果たせる役割は大きいと考えています。